

アブラハム溪谷 (1993)

VALE ABRAAO

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 ポルトガル／フランス／スイス

色彩 Color

時間 189分

初公開日 1994/10/29

公開情報 フランス映画社

【解説】

基本的には静的なのに、これ程力強いカメラの存在を意識させる作品はそうはない。冒頭、ただ横滑りして風景を写すだけの、列車の走りに合わせた移動ショットから固唾を飲ませてくれる。“アブラハムの谷”とは旧約聖書で神が、傲慢と恥と怒りを戒め、人に託された土地とされる。これを監督オリヴェイラは故郷オポルトに近いドウロ河流域の地と定め、一人の放縦な女性エマが、抑圧された生を力強く切り開いていくさまを、圧倒的な北ポルトガルの土壌の包容力の中に、端正かつ豪胆に刻みつける。三時間余の長尺に一箇所たりとも弛緩したショットのない恐ろしい映画だ。その愛の官能を幾重にも織り込んだ物語を一口で語るのは難しい。ただ大変ドラマチックなので一息に観させられる。いや、実際、粗筋をただ書けば俗っぽくもなる。しかしその細部が、信仰の風土での愛と死＝命の変容を艶やかに物語って感銘を受けずにはいられない。サイレント期から映画を撮り続ける（と言っても、この10年でそのフィルモグラフィの半分の作品を撮る旺盛な創造意欲を見せている）オリヴェイラ、85歳での、この実りの瑞々しさと成熟の芳香……。映画の不思議を観る者の心に叩き込む、まさに名画。少女時代のエマを演じるC・サンス・デ・アルバの危険な美しさも忘れられない。原作は、フロベールの『ボヴァリー夫人』を基にしたA・ベッサ＝ルイスのものだが、全く自由な脚色が施されており、そうと言われなければ気付かないほどだ。

【クレジット】

監督	マノエル・ド・オリヴェイラ	Manoel de Oliveira
製作	パウロ・ブランコ	Paulo Branco
原作	アグスティナ・ベッサ＝ルイス	Agustina Bessa-Luis
脚本	マノエル・ド・オリヴェイラ	Manoel de Oliveira
撮影	マリオ・バロツソ	Mario Barroso
出演	レオノール・シルヴェイラ	Leonor Silveira
	セシル・サンス・デ・アルバ	
	ルイス・ミゲル・シントラ	Luis Miguel Cintra
	ルイ・デ・カルヴァルホ	
	ルイス・リマ・バヘート	Luis Lima Barreto
	ミシュリン・ラーパン	
	ヨアヒム・ノグエイラ	
	フリッペ・ココフェル	